

事業所名

ハッピーライフみなと

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2025 年

2 月

1 日

法人理念		地域のライフラインであるための”おもろい”場所づくり						
支援方針		運動遊び等の多彩な活動および体験・地域交流を通して、子どもたちの挑戦する気持ちを育みながら、共に活動し、自信につなげていきます。						
営業時間		9 時	30 分から	18 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	【健康】健康な心と体づくりのために、日々の健康観察および障がいの特性や発達過程を把握し、小さなサインから心身の変化に気づけるように支援をする。 利用中に体調の変化がある場合は適切な対応（保護者様へ状況の報告・医療機関へ受診等）を速やかに行う。 【生活】ご家庭と連携しながら、食事・睡眠・衣類の着脱・排泄等の基本的技能を習得できるように、個々に合わせた支援をする。 食材を調理して食べる活動を通して、食に親しみを持てるように支援をする。（クッキング） 遊びの中から学べるような環境を整える。イラストや音楽で行動の切り替えを促し、（自由遊び→集団遊び、片付け等）時間や空間を分かりやすく構造化する。						
	運動・感覚	運動への興味を広げ、体力や日常生活に必要な能力の向上のために、特性に合わせた運動遊びを行う。（サーキット・ボール遊び・鬼ごっこ・公園遊び・ダンス等） また、姿勢保持や運動また動作が困難な場合は保護者様と連携を取り、適切な訓練を行う。 発達段階や特性に配慮し、視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に発揮できるような遊びを行う。（ボール転がし・砂遊び・○×クイズ・リズム運動等）						
	認知・行動	必要な情報を収集する力を伸ばし認知機能の発達を促すために、製作活動（折り紙・お絵描き・塗り絵等）や運動遊び（平均台・鉄棒・マット・縄跳び等）を行う。 生命の大切さを実感できるように、保有する畑の野菜を育てる・収穫する活動を取り入れる。また、野菜の品種・色・形・重さの違いや成長の過程を観察していく。 子ども一人ひとりの違いを理解した上で、関わり方や伝え方を工夫し、のびのびと安心して活動できる環境を整える。						
	言語 コミュニケーション	言葉・身振り・サイン・文字・絵カード等を用いて相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを相手に伝えたりする力を育む。 複数人の前で、身振り・表情・言葉等を用いて事柄や気持ちを発表する機会を設ける。（おやつのお挨拶・終わりの会等）						
	人間関係 社会性	身近な人との信頼関係の構築をはじめ、周囲の人と共に安心して過ごせる環境を整える。集団活動への参加により、助け合いや思いやりの気持ちを育む。 公共の場での活動や買い物体験、他事業所との合同イベント等を通して、生活のルールや人との関わり方を学び、社会性や人間関係の築き方を身に付けられるように支援をする。						
家族支援		子どもに関する情報の提供と家庭での様子の聞き取りによる定期的な支援の調整をする。 子育て上での不安や悩みに寄り添い、支援内容の検討・提案を行う。 定期面談・保護者交流会・親子イベントで活動の様子を共有する。			移行支援		学童保育や併用事業所との連絡調整を行う。また、必要に応じて情報の共有を行う。 合理的配慮を含めた進路先への情報と支援内容の共有をする。 本人・保護者様への相談援助を実施する。	
地域支援・地域連携		医療機関・児童相談所等の専門機関と連携をとる。 スムーズに生活が送れるように教育機関関係者と連絡調整や情報共有をする。 ケース会議・地域支援体制構築の会議へ参加する。			職員の質の向上		年間研修計画に基づき、定期的に全職員または管理者・対象者別の専門分野の研修を実施する。 ビジネスマナー・リーダーシップ研修・ハラスメント研修を実施する。	
主な行事等		(1月)初詣、餅つき大会 (3月)進級お祝いの会 (8月)夏祭り (10月)ハロウィンイベント (12月)クリスマス会 (他)農業体験・スポーツフェスタ・フットサル・自然散策・施設見学・クッキング・製作遊び等						

事業所名

ハッピーライフみなと

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2025年

2月

1日

法人理念	地域のライフラインであるための”おもろい”場所づくり		
支援方針	運動遊び等の多彩な活動および体験・地域交流を通して、子どもたちの挑戦する気持ちを育みながら、共に活動し、自信につなげていきます。		
営業時間	9時	30分から	18時
		30分まで	送迎実施の有無
			あり なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	【健康】健康な心と体づくりのために、日々の健康観察および障がいの特性や発達過程を把握し、小さなサインから心身の変化に気づけるように支援をする。 利用中に体調の変化がある場合は適切な対応（保護者様へ状況の報告・医療機関へ受診等）を速やかに行う。 【生活】ご家庭と連携しながら、食事・睡眠・衣類の着脱・排泄等の基本的技能を習得できるように、個々に合わせた支援をする。 食材を調理して食べる活動を通して、食に親しみを持てるように支援をする。（クッキング） 遊びの中から学べるような環境を整える。イラストや音楽で行動の切り替えを促し、（自由遊び→集団遊び、片付け等）時間や空間を分かりやすく構造化する。	
	運動・感覚	運動への興味を広げ、体力や日常生活に必要な能力の向上のために、特性に合わせた運動遊びを行う。（サーキット・ボール遊び・鬼ごっこ・公園遊び・ダンス等） また、姿勢保持や運動また動作が困難な場合は保護者様と連携を取り、適切な訓練を行う。 発達段階や特性に配慮し、視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に発揮できるような遊びを行う。（ボール転がし・砂遊び・〇×クイズ・リズム運動等）	
	認知・行動	必要な情報を収集する力を伸ばし認知機能の発達を促すために、製作活動（折り紙・お絵描き・塗り絵等）や運動遊び（平均台・鉄棒・マット・縄跳び等）を行う。 生命の大切さを実感できるように、保有する畑の野菜を育てる・収穫する活動を取り入れる。また、野菜の品種・色・形・重さの違いや成長の過程を観察していく。 子ども一人ひとりの違いを理解した上で、関わり方や伝え方を工夫し、のびのびと安心して活動できる環境を整える。	
	言語 コミュニケーション	言葉・身振り・サイン・文字・絵カード等を用いて相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを相手に伝えたりする力を育む。 複数人の前で、身振り・表情・言葉等を用いて事柄や気持ちを発表する機会を設ける。（おやつの挨拶・終わりの会等）	
	人間関係 社会性	身近な人との信頼関係の構築をはじめ、周囲の人と共に安心して過ごせる環境を整える。集団活動への参加により、助け合いや思いやりの気持ちを育む。 公共の場での活動や買い物体験、他事業所との合同イベント等を通して、生活のルールや人との関わり方を学び、社会性や人間関係の築き方を身に付けられるように支援をする。	
家族支援	子どもに関する情報の提供と家庭での様子の聞き取りによる定期的な支援の調整をする。 子育て上での不安や悩みに寄り添い、支援内容の検討・提案を行う。 定期面談・保護者交流会・親子イベントで活動の様子を共有する。	移行支援	学童保育や併用事業所との連絡調整を行う。また、必要に応じて情報の共有を行う。 合理的配慮を含めた進路先への情報と支援内容の共有をする。 本人・保護者様への相談援助を実施する。
地域支援・地域連携	医療機関・児童相談所等の専門機関と連携をとる。 スムーズに生活が送れるように教育機関関係者と連絡調整や情報共有をする。 ケース会議・地域支援体制構築の会議へ参加する。	職員の質の向上	年間研修計画に基づき、定期的に全職員または管理者・対象者別の専門分野の研修を実施する。 ビジネスマナー・リーダーシップ研修・ハラスメント研修を実施する。
主な行事等	(1月)初詣、餅つき大会 (3月)進級お祝いの会 (8月)夏祭り (10月)ハロウィンイベント (12月)クリスマス会 (他)農業体験・スポーツフェスタ・フットサル・自然散策・施設見学・クッキング・製作遊び等		